

② 国際的なルール(基準・標準)づくりに向けた体制の整備

- 強制規格である国際基準と任意規格である国際標準を俯瞰した戦略を持つことが重要。
(例えば、センサの検知範囲(前方は約104m等)が国際基準として検討される一方、センサの試験方法(環境条件等)は国際標準で扱われる可能性もある。)
- 基準と標準双方の関係者が参加する新たな場を2016年春に設置し、横断的な情報共有や戦略を検討。

